

おおきに健康

歯とお口から

大阪大学歯学部附属病院 広報誌 <http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/>



副院長（医療安全担当）
古郷 幹彦

医療安全担当の副院長をしております。

本院は口腔医療に特化した病院として国民の皆様幅広く認知され、毎日約950名の患者さんが来院されておられます。多くの患者さんにできるだけ適切な医療を提供できますよう全職員あげて努力しております。

本院では安全・安心の口腔医療を展開するため医療安全管理部を設置し、毎週医療安全管理部会議を開催し、本院の医療安全の確認を行っております。全診療現場に担当がラウンドを行い、診療現場の状態を確認しております。また月に一度全診療科の医療安全担当が集まり医療安全委員会を開催しております。昨今の新聞などで見られます大きな病院での医療事故は診療体制をどれだけ整備しても整備しすぎることはないことを示しております。本院でも事故が起こることのないよう体制を整え細部にわたり注意深く診療を進めてまいります。

口腔に特化した国立大学病院として患者の皆様へ納得していただける医療、高度な最先端医療を安心して提供できますよう心がけています。

内面

- 特集1.
矯正科の改修工事が完了しました。
- 特集2.
「歯の博」を開催しました。
- 特集3.
おくすりとお口の関係

お口の相談コーナー
お口のマメ知識

裏面

- 2016年4～6月の統計情報
- 病院概要



広くて明るくなった診療室

矯正科では、大学の診療科として、近年の社会的ニーズと患者さんの増加に質・量ともにお答えできるような環境改善を心がけてきました。その最大のプロジェクトが診療空間の改修であり、昨年10月より工事を始め、本年5月には全く新しい診療空間を完備することができました。チェアの台数をそのままにし、よりスムーズで安全な診療を行うために、診療スペースを拡充してキャビネットを刷新し、チェアの配置を変更しました。また、カウンセリングルームについては、患者さんのプライバシーを完全に確保する為に、資料を移して新たに得られた空間を利用しました。

患者さんの評判も上々

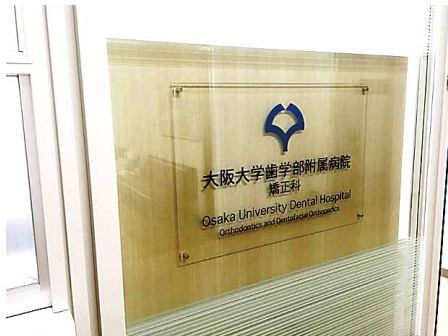
新しい環境で診療がスタートして早一か月、手ごたえを感じております。混雑時の心理的圧迫感がかなり軽減されて参りました。患者さん個々の相談コーナーの充実や、明るさを重視した空間とその余裕、導線の改善、消毒コーナーの配置の改善が、大きなイメージチェンジをもたらしてくれたからだと思えます。



改修された診療室

矯正科ではこれからも治療やケアといった、あらゆる側面から、安全・安心な矯正歯科診療を、附属病院の他科と連携して患者さんに提供してまいります。

今後とも皆さまからのいろいろなご意見をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。



「歯の博」を開催しました

大阪大学創立記念日(5月1日)を祝して開催される「いちょう祭」で、学内施設開放「歯の博」を行いました。



歯医者さんになってみよう!



拔牙を体験してみよう



自分の口の中を見てみよう



石膏でいろいろなものを作ろう

「口内炎はがんになる?」

お口の相談コーナー



近年、日本人の健康への意識が高まっており、テレビでは「病気」「健康」といったテーマの番組がたくさんつくられています。また、芸能人や有名人が大きな病気にかかったりすると、その病気の検診を受ける人が多くなるようです。私たちの科にもそういった患者さんが多く来られます。それは何か? 「口内炎」です。テレビの「口内炎特集」の多くは、「がんかもしれませんよ」というメッセージがこめられており、放送終了後には心配してたくさんの方が受診されます。

ではお口にはがんはできるのでしょうか? 答えは「Yes」です。お口にできるがんを「口腔がん」と呼び、舌、歯

肉、口底の順に多くなり、発生する割合はすべてのがんの1~3%とされています。全体として決して多いものではありませんが、近年増加傾向にあります。口腔がんは早期発見できれば治る確立が高いのですが、実際には進行してから発見されることが多く、命に関わることも多くあります。では、どんなことに気をつければ良いのでしょうか? 一般的によくある、**①口の中がしみて、痛くて、小さくて白くて、3、4日で治るけど、また疲れたりする**と出る「口内炎」は、**がんではありません**。(写真1)ただしその逆の、**②痛くなくて、少し幅が広がって、2週間以上たっても小さくならず変わらない**

口腔外科1(制御系) 助教 平岡慎一郎

「口内炎」はがんに関係する状態「がんもしくは白板症」かもしれません。(写真2)もし②にあてはまるのであれば、先生に相談してみてください。何事も早期発見が大事になります。



写真1



写真2

ました。 2016年5月1日(日)
10:00 ~ 15:00

歯周病
について
学ぼう!
①



歯周病
について
学ぼう!
②



CTで
観察して
みよう
①



CTで
観察して
みよう
②



体験コーナーを設置し(写真は一部) 毎年、小学生や高校生など300人以上の方が参加されています。

特集 3

おくすりとお口の関係

薬剤部 上田幹子

お口の治療とおくすりはなかなか結び付かないかもしれませんが、しかし、意外なことにお口とおくすりは密接な関係をもっています。

のみぐすりはお口からのみです。苦いおくすりは味覚がちゃんと機能していればこそ「味わえます」。大きな錠剤や粉薬も量が多ければ飲みにくくなります。なにより大事なことは飲み込むことができることです。のみぐすりの多くはおなかの中で溶けてこそ効果を表します。口腔内崩壊錠というお口の中で溶けるおくすりも最終的にはおなかの中に入らなければなりません。「飲んだはず」のおくすりがお口の中に残っていれば、おくすりは効果を発揮することができません。このようにしっかりとおくすりに働いてもらうためにはお口の機能は重要です。

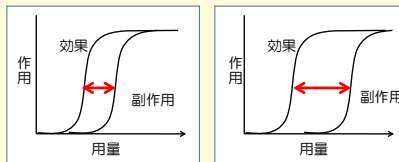
おくすりには飲むことにより「副作用」がおこる可能性があります。その中には「口内炎」や「お口が渇く」「飲み込みにくくなる」「歯茎が腫れる」「歯が黒くなる」などお口に関係するものが挙げられます。例えば「口渇」の副作用があるおくすりは700種類以上

あると言われてます。少しでも気になることがあれば、意外におくすりに関係しているかもしれませんので歯医者さんに相談してください。

痛みを感じれば痛み止めを飲まれると思いますが、症状が実感できずに処方された抗生物質を飲まれないことで、感染により患部が腫れたりすることがあります。指示された抗生物質は必ず飲んで下さい。おくすりに「有効血中濃度」があってこまごま体の中になければ効果が表れないという量があります。反対にこれ以上体の中に留まれば「有害事象」が表れるという量があります。おくすりは適正な量を適正な飲み方で飲んで、期待できる効果が出ます。たとえ症状がなくても飲まなければならないおくすりがあります。担当医の指示を必ず守って下さい。おくすりでお口を守ることもできます。

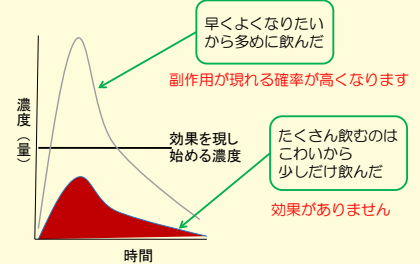
時にはおくすりの力を借りて、お口を健康に!!

お薬によって適正な量が異なります



お薬の安全域

指示をまもらなかったら



<菌血症とは? 感染予防が、歯科治療では大切です!>

口腔治療・歯周科 助教 山下元三

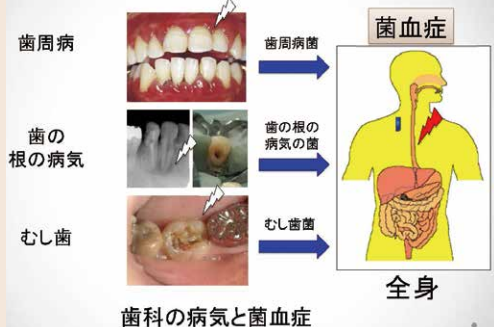
お口の
マメ知識



Aさんと大阪大学歯学部附属病院の
歯科医師との会話。

Aさん「先生、聞いてくださいよ!『キンケツショウが怖いから、うちでは診れない、大学病院に行ってください』と今まで通っていたかかりつけの歯医者さんで言われました。この間まで心臓病で入院していてやっと退院できたので、いつもの様に歯のお掃除に行ったら、「お金」が無いから診れないなんて、、、ショックです。」

歯科医師「えー? キンケツショウ? “お金”が無い? あー! Aさん、まあ落ち着いて! 心臓、大変でしたね。『菌血症』って、血の中に菌が入り込むことですよ。かかりつけの歯医者さんは、『菌血症が怖い』とおっしゃったのだと思いますよ。」



お口の中には、約800種類の細菌が10億個以上生息しています。そのため、歯周病やむし歯の治療に伴って歯周病菌やむし歯菌が血液中に入ることがあります。このように身体の血液の中に細菌が存在する状態を「菌血症」と呼びます。現在では、歯周病の手術や抜歯などの歯科治療だけではなく、歯磨きやご飯を食べるだけでも、血液中に細菌が侵入し、菌血症を発症することが明らかになっています。ただ、通常では、細菌が血液中に侵入しても、マクロファージのような免疫細胞に捕まって速やかに排除され、すぐに回復します。

しかしながら、免疫に異常をもつ患者さん、心臓にペースメーカーや人工弁を装着されている患者さん、大きな手術を受けられて体力の低下した患者さんや高齢の方では、そのような体の防御メカニ

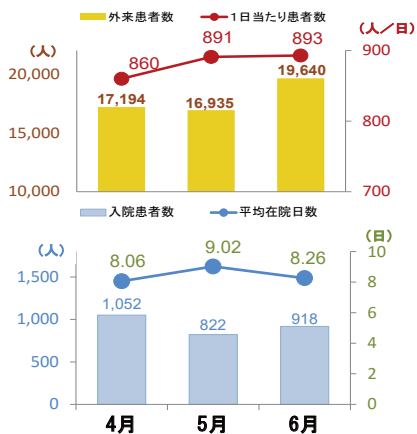
ズムがうまく機能しません。そのような方に、抜歯や歯石除去などの出血をともなう治療、歯の根の治療などの歯科治療を実施する場合には、処置開始の直前に、細菌をやっつける抗菌薬を服用していただくことが推奨されています。

一般的にも、お口の衛生状態が不良で、歯周病や歯の根に膿が貯まっている様な患者さんは、歯肉や骨の炎症の部位から細菌が血液に侵入し、菌血症から細菌性心内膜炎や脳への感染などの発症リスクが高まることが報告されています。そのため、毎日の歯磨きとお口の定期的なケアが非常に大切です。

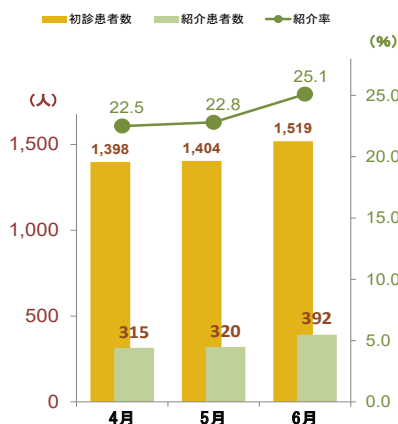
当科では「安心・安全・快適」をモットーに歯周病とむし歯の治療にあたっています。何か分からないことや、全身的な体調の変化があれば、担当医にご相談ください。

4月～6月患者数等統計

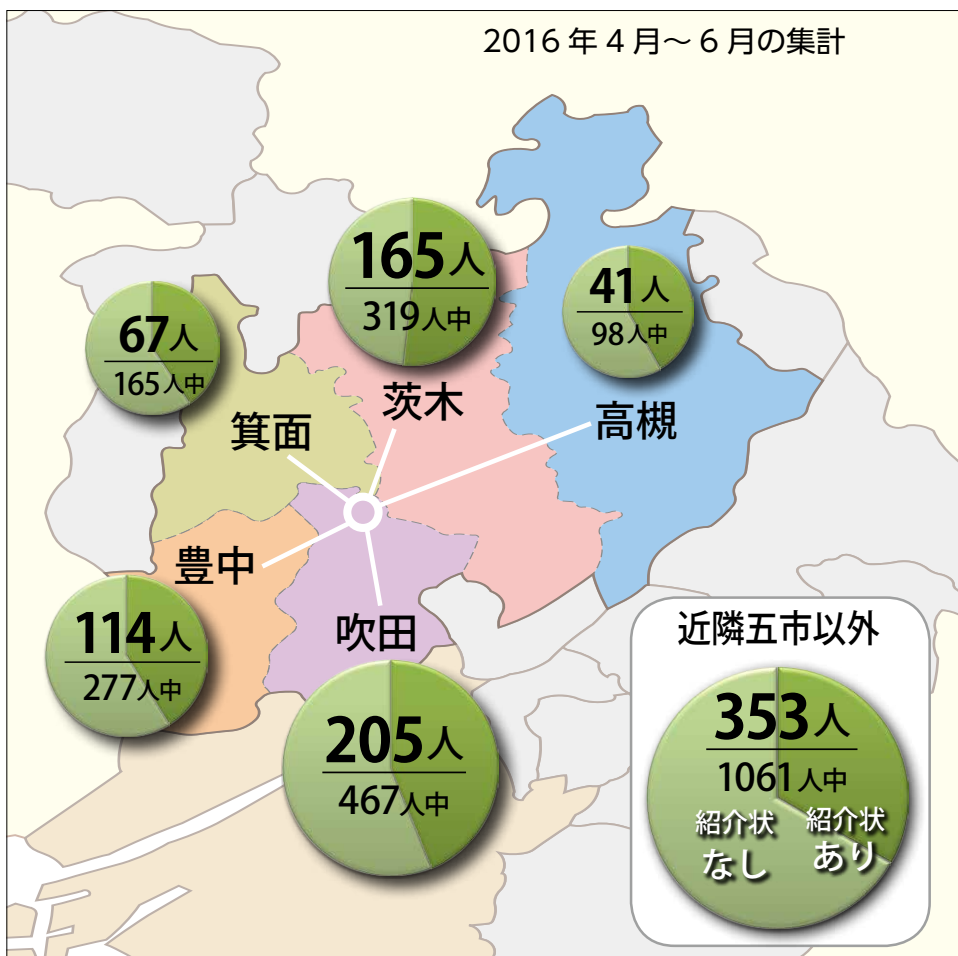
外来患者数・入院患者数



初診患者数と紹介患者数比率



近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）
【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえお越しください。

入院患者さんへのご面会時間は、12時から19時となっております。

病院へのアクセス

http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital_000009.html

歯学部附属病院にお車でのお越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。なお、平日夜10時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越しください。

看護師募集中！

—お問合せ—
歯学研究科総務課人事係
06-6879-2834 まで

